



第50号

2024年3月31日

○発行  
650-0004  
神戸市中央区中山手通  
7丁目25-3  
神戸真生塾広報誌編集係  
TEL (078) 341-5897  
FAX (078) 341-8239  
E-mail:kouhou@kbshinsei-j.or.jp

○振替口座  
郵便振替01100-8-18680

「子どもたちの笑顔が光輝くように」

社会福祉法人 神戸真生塾  
児童養護施設 神戸真生塾 理事長・施設長



年能登半島地震」や「羽田空港での事故」など悲しいニュースで始まりました。海外では紛争が続き、国内では新型コロナウイルスが2類から5類に引き下げられましたが、神戸市内ではインフルエンザ流行期が5月中旬より続き、秋以降もアデノウイルスや溶連菌等の流行も続いております。暗いニュースが続いているますが、子どもたちとは明るい未来を目指して歩んでいきたいと思います。

さて、今年の4月より児童福祉法等の一部が改定されます。趣旨としては『児童虐待の相談対応件数の増加など、子育てに困難を抱える世帯がこれまで以上に顕在化してきた』という状況等を踏まえ、子

の利用制限の弾力化。⑤児童の意見聴取等の仕組みの整備により児童の最善の利益を考慮しつつ、児童の意見・意向を勘案して措置を行つたり、意見・意向表明や権利擁護に向けた必要な環境整備を行つ。⑥「子ども家庭福祉ソーシャルワーカー（仮称）」の設置。⑦児童をわいせつ行為から守る環境整備等が挙げられます。その他にも改正項目はありますが、弊法人としてはこれを受けて全てに早急に対応していくのではなく、急いで対応することと、じっくりと社会の動き、子どもたちの置かれている環境をみながら対応すること

い不安に耐えながら、熟慮する。答えが出なくとも問題に挑み続け  
る力こそ、ネガティブ・ケイパビ  
リティです」と語っています。ま  
た、枝廣氏は「まず、いま考えて  
いる解決策が、目の前の問題の改  
善だけでなく、長期的に見て有効  
なのかを考えます。そして、いま  
問題だと思っていることは、より  
根本的な問題の『症状』に過ぎな  
いのではないか、と考えてみる。  
最後に、何か思い込みがないか。  
どうせ私はこういう人間、どうせ  
うちの会社はこうだ、と思い込ん  
でいると、他の選択肢がでてきま  
せん」と語っています。「急がば

す。先達の大切にされてきたことを継承しながら、今日的な課題に向き合い、子どもと若者の受難の時代に何をすべきかを考えていきたいともいます。大きな変革の時期ではありますが、施設で生活する子どもたちと地域社会で生活する子どもたちの未来を見据えて、『子どもたちの笑顔が光輝く』ような社会となるように2024年度の歩みを始めていきたいと思います。変わらぬご支援をお願いいたします。

育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化等を行うこと。』を目的としています。神戸真生塾の実施する事業に関する改正の内容としては①こども家庭センターの設置と相談機関の整備②家庭支援事業の強化③児童相談所による

林廣治子氏の「インスピレーション」論を読みながらいろいろ考えさせられました。『ネガティブ・ケイパビリティ（負の能力）』という言葉で、帚木氏は「【答えの出ない事態に耐える力】と説明されていました。世の中には明確な答えのある問題ばかりではありません。むし

のを少しでも小さく積み上げてください。変えることのできるものを見る勇気を与えてください。そして、変えることのできるものとできないものを見分ける賢さを教えてください。』と祈っています。

と、優先順位を付けて検討して行きたいと考えます。2024年1月3日の朝日新聞の朝刊に「答えを急がない力／解なき今を照らす

回れで、立ち止まりながら進める  
必要があると思います」と締めく  
くっています。最後にアメリカの  
神学者であるラインホルド・ニー



# 兒童養護施設 神戸真生塾

子ども会

11月には『秋の大運動会』を開催しました。どんな競技がしたいか、年齢も幅広い為、考えるのも一苦労。また、司会や競技の補助等も子ども会メンバーが主体となり、動いてくれました。

運動会当日を迎え、ホールに次々と集まつてくる子ども達を見て、子ども会メンバーはドキドキした表情で、上手くいくかな?と、いう不安げな様子でしたが、始まってしまえば不安や緊張も徐々になくなつていったようで、笑顔が見られるように。

みんな、それぞれが班のメンバーを応援している姿が、印象的でした。



子ども会は、幼稚・小学生の子ども達が集まり、高学年から希望者を募り、子ども会メンバーを決め、一年間を通してクリーン作戦（雨天の為、ホテルの雑巾がけ大会）やクリスマス食事会、アドベンド、外出等、様々な企画を子ども達と職員が一緒に考え、行つてまいります。

に、養護の子ども達が寄り添つて  
いる姿が微笑ましかったです。  
どの競技も、楽しみながらも真  
剣に挑んでいた事もあり、勝てた  
事に喜ぶ姿もあれば負けてしまつ  
た事で悔しがる姿も見られました。  
運動会には、養護だけでなく、  
乳児院の子ども達や職員の皆様に  
も参加して頂き、楽しい時間を一  
緒に過ごす事が出来たことが、と  
ても嬉しく感じます。

また来年、どんな事をするのか  
今から楽しみでなりません。

東崎宏紀・黒田祐加

クリスマス祝会

初めに、イエスキリストのご誕生をお祝いするクリスマスのひと時を、お越しいただいたお客様より感謝しております。近年コロナ禍によりお客様をお招きしての実施は控えさせて頂いておりましたが、今年は4年ぶりにお客様をお招きして開催する事が出来ました。子ども達はこの日のために祝会で行われる聖誕劇朗読の練習を重ねてきました。今回は、有志の子ども達が集まり、セリフの読み合いで、部分練習、全体練習、歌の練習と何回もの練習を前向きに取り組む姿に、安心して本番を迎える事が出来ました。また、ステージでは二人の子ども達が手を挙げ、ダンスを披露する事になり、クリスマス祝会に向けて練習が始まりました。振り付けも全て子ども達が考え、自分達で苦手な所の部分練習をしたり、練習日ではない日にも二人で練習に励み、あつという間に振り付けを覚えていました。



また、祝会では教員合唱団の皆様や、モーリーフアンタジーの方々が子ども達を楽しませて下さいり、子ども達はもちろん職員にとっても、より一層心に残るひと時となりました。



まりつつあるようでした。聖誕劇朗読では日頃の練習よりも大きいく、落ち着いてゆっくりとした口調で読めている姿に驚き、頬もぐく思いました。ダンスでは本番前、とても緊張している様子で、何度も「ドキドキする」と顔を含

最後になりましたが、祝会にご参加頂きました神戸教員合唱団の皆様、モーリーフアンタジーの皆様、会場にお越し頂きました方々、本当にありがとうございました。来年度も皆様と共に素敵なクリスマスを迎えられますように。

## こどもから 退所する

「仲良くしなさい、順番にしようね。」私は幼い頃から言われてきた言葉です。私には一つ上の幼馴染の先輩がいました。当初、本当に仲が悪く、小学生の時はケンカの日々でした。「ケンカする程仲が良い」それは本当に私はそうだと思いました。ケンカをするから、人がされて嫌な事や、悲しむ事を学習しました。

小学校4年生からクラブチームに入つてバレーを始めました。初めの入つた理由は「あの子が行つているから私も」という小学生らしい理由でした。真生塾の職員が仕事以外のプライベートの時間を使って試合を見に来てくれました。小学校では副キャプテンをしていました。スポーツから学ぶことは凄く多いなと思いまし。人と人の支え合い、敬語、感謝する心、スポーツmanship、チームをまとめらる力そして何よりも「勝つ」と言う事が私にとって一番でした。本当に負けず嫌い

で強豪チームと戦つて負けた時は毎回泣いたり、不機嫌になつたりしていました。そこから施設でいました。その空き時間はバレーに費やしました。職員と一緒に練習したり、同じチームに通つていた幼馴染とほとんど毎日練習していました。

そして中学生もバレーボール部に入りました。小学生とはまた違う環境でのスポーツが始まりました。監督も変わり、毎日がハードになりました。個人練習や部活以外にもバレーに参加する事もありました。市大会のベスト8まで入りました。努力だけではなく人としても育つことが出来ました。小・中共にエースとしてメンバーに入る事が出来たのは一生の思い出です。スポーツの日々で職員に当たつてしまふ事もありました。

4歳のAくんと一緒に児童養護施設の居室のチャイムを鳴らすと、「はーい」と声が聞こえてきました。今でも幼馴染は週一にプライベートで会う程になりました。家族と過ごす様な感覚で接して下さった皆様、そして一緒に育つてきた幼馴染に感謝しています。本当に16年間ありがとうございました。

4歳のAくんが児童養護施設に来るまで小学生2人は「新しい子いつ来るの?」「来たらなにして一緒に遊ぼうかな」ととても楽しみに待っていました。初めて児童養護施設に来たAくん。とても緊張した様子。そんなAくんに「これよ」「これはこうするんだよ」と優しく声をかけ、色々なことを教えてくれました。環境の変化に、憧れの眼差しのAくん。「これはどうやって作るん?」と、リビングへ案内してくれます。細かいパツで出来たレゴブロックの車に、「戸惑つたり、困つたりする」と教えると、「できる?」「やつてあげようか」と気持ちを汲み取って、手伝ってくれるなど、お兄ちゃんたちが優しく接してくれ、信頼関係が深まっていきました。

4歳のAくんが児童養護施設に来るまで小学生2人は「新しい子いつ来るの?」「来たらなにして一緒に遊ぼうかな」ととても楽しみに待っていました。初めて児童養護施設に来たAくん。とても緊張した様子。そんなAくんに「これよ」「これはこうするんだよ」と優しく声をかけ、色々なことを教えてあげたり、「これしてあげるよ」と手を差し伸べたりと徐々にお互い打ち解けていき、関係が深まっていきます。子ども達だけでなく、Aくんから「これ見て」と職員に話かけてくれたりと職員との関係性も構築していくます。慣らし保育を通して共に過ごす時間があることで直接的に子どもと乳児院の職員の方の声を聞くことができ、子どもの移行後について考えることのできる素敵な保育だと感じました。慣らし保育があることにより安心して子ども達が移行でき、移行後もこれまで関わってきた多くの職員、子ども達と関係性を持つてると思います。これからもそのように人との関わりを繋げられるようサポートしていただきたいと思います。また、乳児院の子ども達の育ちを丁寧に繋げ、受け取れるよう気持ちに寄り添い、支えていきたいと思っています。

## 乳児院と 児童養護施設の つながり

神戸真生塾では、乳児院と児童養護施設が隣接されています。乳児院から移行する際は慣らし保育といって、子どもの様子を見て段階を踏み、1人ひとりに合わせた支援を行っています。

中野 麻衣子



配慮しています。これからも、子どもたちの育ちを丁寧に繋げています。これからもそのように人との関わりを繋げられるようサポートしていただきたいと思います。また、乳児院の子ども達の育ちを丁寧に繋げ、受け取れるよう気持ちに寄り添い、支えていきたいと思っています。

近藤 未空

11月6日、遠足でおもちゃ王国に行きました。子どもたち、バスに乗るところからワクワクです。初めてバスに乗る子もいて、「バス乗ってるね!」と嬉しそうにお話していました。おもちゃ王国には、汽車やジェットコースター、面白そうな乗り物がいっぱいです。メリーゴーランドのお馬さん乗り、動き始めると、きらきらの笑顔で楽しそうな子もいれば、少しひっくりしてお姉さんと手を繋いで乗っている子もいました。観覧車は、とっても高くまで昇り、子どもたちは平気そうで、大人が怖がっている様子を見て笑っていました。お昼ご飯はレストランで、カレーライスと唐揚げとポテトとジュース、子どもたちが大好きなメニューがいっぱいです。大きなお口でいっぱい食べていました。午後からはメルちゃんアイランドで遊びました。メルちゃんの人形やメルちゃんのおもちゃがいっぱいあって、お人形遊びが好きな女の子たちには、夢のような空間です。メルちゃんのドレスを着てメルちゃんになりきつた

11月6日、遠足でおもちゃ王国に行きました。子どもたち、バスに乗るところからワクワクです。初めてバスに乗る子もいて、「バス乗ってるね!」と嬉しそうにお話していました。おもちゃ王国には、汽車やジェットコースター、面白そうな乗り物がいっぱいです。メリーゴーランドのお馬さん乗り、動き始めると、きらきらの笑顔で楽しいうな子もいれば、少しひっくりしてお姉さんと手を繋いで乗っている子もいました。観覧車は、とっても高くまで昇り、子どもたちは平気そうで、大人が怖がっている様子を見て笑っていました。お昼ご飯はレストランで、カレーライスと唐揚げとポテトとジュース、子どもたちが大好きなメニューがいっぱいです。大きなお口でいっぱい食べていました。午後からはメルちゃんアイランドで遊びました。メルちゃんの人形やメルちゃんのおもちゃがいっぱいあって、お人形遊びが好きな女の子たちには、夢のような空間です。メルちゃんのドレスを着てメルちゃんになりきつた



り、メルちゃんと電話でお話したり……忙しそうに遊び回っています。いっぱい遊んで、帰りのバスでは、みんなぐっすり眠っていました。楽しい思い出ができたね。

戒能 そのか

## おもちゃ王国への遠足

## 院内運動会

令和5年10月14日、お天気も良くて、当院の中庭において院内運動会が行われました。

今年度はコロナが5類になつたことで4年ぶりにご家族の方々をお招きして開催となりました。ほとんどの子どもがご家族と一緒に運動会は初めてです。いつもと違う雰囲気の中、それぞれご家族や兄弟の膝に抱かれ、少しの緊張もありながら、運動会は始まりました。養護施設の子ども達のお手伝いもあり、とても賑やかです。体操から始まり、赤ちゃんの触れ合い遊び、ハイハイ競争、かけっこ、お買い物競争、玉入れとプログラムが進んでいきます。応援グッズを鳴らしながら、お友達を応援したり、緊張しながらもご家

族や職員に励まされて頑張る子ども達。さつきまで泣いていた子どもが競技が始まるとピタッと泣き止みゴールを目指して走り出したり、またゴールと反対に走り出したりと微笑ましい場面も多くありました。ご家族も我が子の頑張る姿を残そと、携帯のカメラを

我が家に向けられます。ベストショットが撮れたと職員に見せてくださいるご家族もいらっしゃいました。いつもの面会とは違い、戸外でのびのびした姿を見て頂いたり、一緒に競技に参加して頂いたりと笑顔あふれる楽しい時間を過ごすことができました。そして子ども達にとつてもご家族と過ごすかけがえのないひと時となりました。今までコロナ禍で大勢で集う

行事は開催できませんでしたが、これからは、人と触れ合い、いろいろな経験を通して、健やかに成長していくほないと願っています。

中野 麻紀子



## 幼保連携型認定こども園

### 真生きらきら保育園

#### お年寄りとの交流

2023年はコロナウイルス感染予防対策の3年間がようやく終わり、コロナウイルスが第5類に分類されたことで少しずつ以前のような日常が戻ってきた一年でした。何と言ってもマスクをしないで子どもたちと接することも出来るようになりました。きらきらまつりや運動会等の保護者参加行事も全児参加で実施し、お家の方と一緒に楽しむことが出来ました。言葉に興味を持ち始めた子どもは、保育教諭の口元をじっとよく見て同じように言おうとしてみたりする姿があり、これは3年間では見られなかつたことでした。マスク1枚がないだけでこんなにも子どもと接することが楽しいと思えることをあらためてこの当たり前の日々に感謝しています。

12月に幼稚組の子どもたちが、近隣の「そよ樹デイサービス」を訪問しました。3歳児、4歳児、5歳児が順に歌のプレゼントをしました。最後に「おじいちゃん、

声をかけて帰りました。翌日、デイサービスの方から、利用された方が帰宅されてから、家族に「子どもたちが可愛かった!」「子どもたちから元気をもらつた!」とお話をされていたとお聞きしました。子どもたちのパワーはすごいですね。周りの人を元気にする力があります。子どもたちの成長をお家の方と一緒に見守つていきたいと再確認した出来事でした。

おばあちゃん、げんきでね!」と声をかけて帰りました。翌日、デイサービスの方から、利用された方が帰宅されてから、家族に「子どもたちが可愛かった!」「子どもたちから元気をもらつた!」とお話をされていたとお聞きしました。子どもたちのパワーはすごいですね。周りの人を元気にする力があります。子どもたちの成長をお家の方と一緒に見守つていきたいと再確認した出来事でした。

橋本 美記代

おばあちゃん、げんきでね!」と声をかけて帰りました。翌日、デイサービスの方から、利用された方が帰宅されてから、家族に「子どもたちが可愛かった!」「子どもたちから元気をもらつた!」とお話をされていたとお聞きしました。子どもたちのパワーはすごいですね。周りの人を元気にする力があります。子どもたちの成長をお家の方と一緒に見守つていきたいと再確認した出来事でした。

お友だちを見て、真似して一緒に遊ぶ姿も増えてきています。言葉で「かーしー」「いいよー」というやりとりをする場面も見られるようになりました。玩具を貸してもらった時は「ありがとう」と言えて、子どもたち同士の関りがどんどん深まっています。

請川まり子・宇佐美暉



#### めろんぐみ(5歳児)

12月上旬には、遊戯室のクリスマスツリーにみんなで飾り付けもしました。

とても素敵なクリスマスツリーになりました。  
村上 海衣

村上 海衣

12月のクリスマス礼拝当日は、ちょっとびり緊張していた様子でしたが、自信を持って大きな声で台詞を言うことができました。

聖誕劇を通して「仲間と一緒に一つの物を作り上げた!」「やりきった!」という達成感や満足感を感じ、一人一人が役割を持つ力を発揮することができたことで、自己肯定感を高める事につながったのではないかと思っています。

12月上旬には、遊戯室のクリスマスツリーにみんなで飾り付けもしました。

とても素敵なクリスマスツリーになりました。  
村上 海衣

## 自立援助ホーム 子供の家

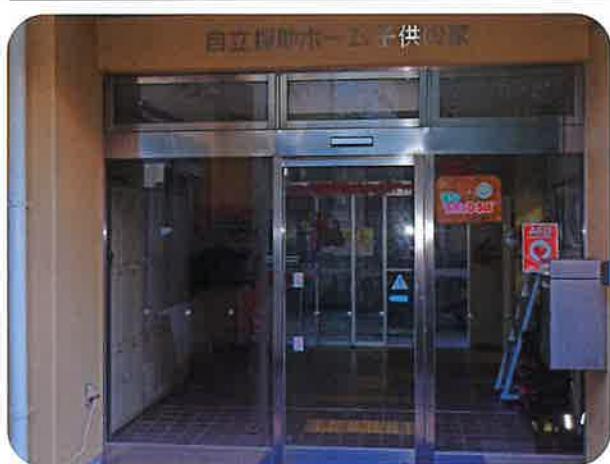
### 「叱る」と「怒る」の違い・日常の関りの重要性

私が児童福祉の仕事を始めて早12年が経とうとしており、今まで様々な子ども達と関わってきました。私達職員は日々、子ども達と一緒に生活をしながら良い事も悪い事も共に喜び、悲しみ、気持ちを分け合っています。そんな生活の中で避けて通れないのが「叱る」という行為です。子ども達一人一人には色々な課題があります。中には行動や考え方を修正してもらわなければならぬ場面もあります。そんな時に「叱る」という行為をするのですが、「叱る」とは何なのか?同じような言葉で「怒る」とありますか、「叱る」と「怒る」の違いは何なのか?とふと疑問になつた時期がありました。皆さんも「叱る」の意味や、「怒る」との違いを聞かれてパッと答えられない人も居るのではないか?私もその一人でした。児童福祉に従事する者としてそれはいけないと思い、「叱る」と「怒る」の違いや意味を調べてみようと思いました。

調べてみると「叱る」の語源は口偏に七と書き、「しつ!」と鋭い声を発する意味合いを持ちます。口調は強けれども

相手に何かを伝えることを表現した漢字になつています。一方、「怒る」は女性がひざまずき、心臓に手を当てて怒りを表現している様である漢字という事でした。両者の明確な違いは「相手に、何を、どの様に伝える」かが語義としてあるかどうかです。簡単に言うと「怒る」は自身の感情に任せて相手に対し強い口調で伝える事、「叱る」は理屈的に相手に改善するべき点やその為にどうするべきかを伝える事です。

これを調べ、理解した時に、私は自分の胸に手を当て、考えてみました。私は今まで子ども達を「叱つて」いたか…、「怒つて」いたのではないだろうか?と。この問題は私だけではなく、全ての人にとってはまるものだと考えています。勿論人は感情的になりますし、いつでも理性的に物事を考えられるものではありません。ただ、児童福祉の専門職に従事している以上、この「叱る」「怒る」問題は自身の中ではっきりと区別をして子ども達と関わる必要があると強く感じました。それからは自身の中で区別をつけ、



一緒に改善出来る様になっていきました。ただ、この「叱る」という行為、誰でも違ひが分かれば出来るというものではないと感じました。「叱る」前に必要な事は子どもとの関係性だと思います。苦手な人や関係性が薄い人に注意を受けると腹が立つたり、逆にどうでも良いからと話を聞かなくなるという経験をされた方も居るのではないでしょうか。注意を受けて「しまった!」と思えるのは相手の事を信頼している証拠だと私は思っています。では子ども達との関係性を構築するにあたり一番重要な事は何か?それは題名にある通り日常の関わりだと思います。日々、共に関わり、遊び、教え、論し…この一緒に行動する事こそが信頼の第一歩だと考えています。

以上の事は私が調べ、実践し、子ども達と関わった上で感じ取った事です。ですので、この考えが正解とは限りません。もしかしたら、もっと良い考え方があるかもしれません。ですが、この記事の内容を、私と同じく児童福祉に従事している方や、今まさに子育てをされている保護者の方が見る事で無数にある選択肢の一つや考え方として日々の関わりに活用して頂けたら幸いです。私自身、まだ子ども達から学ぶ事も多いです。現状に満足する事なく、さらなる専門性の向上を目指して行きたいと思います。

安西 陵



ありがとうございました

## 寄付物品

寄付金

敬称略・五十音順

- 石井幼稚園  
○伊藤千景  
○上杉徹  
○大江慎一  
○大垣友行  
○岡本美智子  
○梶田一聖  
○數田紀久子  
○学校法人明治学院  
○家庭養護促進協会  
○川勝浩  
○官永公子  
○神戸教会いづみ幼稚園  
○神戸教員合唱団  
○神戸教会  
○神戸市中央区社会福祉協議会  
○神戸聖隸福祉事業団  
○神戸市乳児院連盟  
○後藤恭子  
○清水美香  
○真生きらきり保育園職員一同  
○住元義則、淳子  
○高森紀子  
○谷本紀子  
○民谷清  
○時岡三恵  
○友藤喜久子  
○中村淳子  
○難波美智子  
○乳児職員有志  
○日本キリスト教会西宮中央教会  
○認定こども園頌栄保育園  
○根本志保  
○橋本美記代  
○鼻崎孝  
○濱田栄二、理恵  
○林りえ  
○廣瀬加恵  
○藤井祥子  
○藤井秀彦  
○細見英信  
○本城智子  
○宮本美恵子  
○森田順  
○有限会社カワタリ電設  
○養護職員有志  
○若林考典  
○綿谷榮子  
○渡邊智明  
○引田実  
○尾真紀  
○門脇明彦  
○共進舍牧農園  
○(株)神戸スイーツポート  
○(株)チユチュアンナ  
○(株)ディ・オーラ  
○(株)フレーベル館  
○協同食品株式会社  
○神戸昇天教会  
○神戸ポートワイズメンズクラブ  
○コストコ  
○小鯛竜也  
○後藤恭子  
○島田千里  
○神果神戸青果(株)  
○全国シャンメリーアー協同組合  
○外山陽子  
○チルドレンストーリーヒーデ  
○中筋達哉  
○西田真二  
○西山  
○日仏商事株式会社  
○日本鏡餅組合  
○P&Gジャパン合同会社

## じのもん つぶやき

「男の子って英語で何って言うの?」「一番上の文字が『ボ』だよ『あ、ぼくや!!』から、右で計つて!」

(小2女児)

サンタさんにお手紙を書いていたR君。サンタさんにお願ひするプレゼントを正確に伝えると「お姉ちゃん、お直しある? サンタさん字読めるかな?」きっとR君の思いはサンタさんに届くはずだよ☆

子育てホッとライン  
078-341-6493  
平日休日問わず9:00~18:00  
緊急の場合は夜間もつながります

相談無料  
匿名OK

なんとかやってみるか  
スッキリできたかも  
話を聞いてくれるんだ

QRコード: Instagram  
QRコード: ホームページ  
QRコード: Facebook

神戸真生塾 子ども家庭支援センター  
ロータリー子どもの家

当法人は、キリスト教精神に基づき活動をしていることもあり、朝、礼拝が行われる。私自身はキリスト教の信者ではないが、10分ほどの時間、仕事に向かう気持ちが切り替わるような気がして、時間が許す限り参加するようになっている。礼拝では「主の祈り」をささげる時間があるが、その中に「われらに罪を犯すものを、われらがゆるすことく、われらの罪をもゆるしたまえ」という一節がある。罪というと重い感じがするが、この言葉に触れるとき、至らないところが多い自分についても受容されていると感じ、そのような寛容な気持ちを他者に対しても持とうと改めて思う機会になっている(Im O.K. You're O.K.である)。

相談支援にまつわる仕事をしていると、支援者側の想いや考えを知らず知らずのうちに押し付けてしまいがちである。そうなつては相談者の方の想いやペースと離れ、まず、上手くいかない(気づかず上手くいっていると思つていると危ない)。焦らずに、相談者の方と一緒に、たどり着きたいイメージを共有しながら、半歩後ろを

歩く「伴走者」というスタンスを保つことが重要だ。引っ張らずとも必要があれば給水の水も渡すことが出来る。今日も礼拝に参加して、待つことが出来る寛容な心を持つよう祈りたいと思う。

宮本 敬彦

## 寛容な心で受け止める

# 神戸真生塾子ども家庭支援センター ロータリー子どもの家

## 編集後記



### 神戸真生塾苦情処理委員

苦情受付担当者	久山 啓 (子ども家庭支援センター長) ロータリー子どもの家センター長)
苦情解決責任者	川本 真美 (乳児院 真生乳児院 家庭支援専門員) 山口 美久未 (真生きらきら保育園 主任保育教諭) 有吉 みはる (神戸市立自立援助ホーム子供の家主任指導員) 上杉 徹 (児童養護施設 神戸真生塾 施設長)
第三者委員	數田 純久子 (乳児院 真生乳児院 院長) 橋本 美紀代 (保育所 真生きらきら保育園 園長) 竹原 桂昭 (神戸市立自立援助ホーム子供の家施設長) 岡部 正範 (当法人監事)
苦情受付件数	令和5年7月から12月末まで 0件

令和6年、元日に能登半島地震が起これ、今も被災地の方々は、大変な思いをされています。私が入所1年目で、阪神淡路大震災があり、神戸は大きな被害があり、たくさんの方が亡くなりました。街は、多くの人の支援や頑張りで復興しましたが、忘れられない悲しみを抱えている人がたくさんいることを、忘れてはいけないと思っています。今回の能登半島地震で被害にあられた方々が1日も早く安心した生活が取り戻せること、街の復興を願っています。

当法人でも、災害時の避難訓練を毎月実施しておりますが、改めて、緊時にどうすべきか子どもたちと、しっかりと話をしておかなければと感じておられます。そして、今、子どもたちと喜怒哀楽を共にし、成長を喜びあえることに感謝を忘れずにいたいと思っております。

最後になりましたが、広報誌『愛』の第50号を発刊するにあたりご協力頂きました方々、また日頃より神戸真生塾を、ご支援いただいている全ての皆様にお礼申し上げます。

沖野 世津子